

エダマメ旬宴会で盛り上がる千葉県野田市でも人気です!

とよふさエダマメ



「今後も「とよふさ」に期待している」と、「とよふさ」に絶対の信頼を置いてくださる古橋ご夫妻。



古橋 守様

千葉県野田市木間ヶ瀬
経営規模：ハウス45a、露地50a

エダマメ導入のきっかけ

以前作付していたダイコンの価格が低迷したため、もともと持っていたビニールハウスの活用も考えて、価格の安定したエダマメの早出しへ切り替えました。

「とよふさ」導入の理由

～「とよふさ」の高作業性と高商品性～

高い作業性

「とよふさ」は葉が除去しやすく、下葉の数も少ないので作業性が非常に高い。



高い商品性

「とよふさ」は莢色が鮮やかで大莢であるため、直売所でも売れ行きがよい。



経営上の効果

◆高い作業性で収穫効率UP!

葉除去作業にかかる作業時間が他の品種と比較して少ない。

◆あれこれ品種を買う必要なし!

中早生品種だが、早出しエダマメとしてハウス栽培に利用が可能で、早出しから遅出しまでひとつの品種で対応できる。

◆嬉しい高収量性

主枝の着莢率が高く、側枝に着く莢の肥大も良いので、収量が高い。



今のところ、「とよふさ」に代わるだけの性質を持った品種は見当たらないと語る古橋様。
2009年春も「とよふさ」の作付を予定しています。

とよふさエダマメ



直播栽培の「とよふさ」。前作の影響でやや旺盛に生育しているが、「暴れは少ない」と早川さん。

エダマメへの転換当時の苦労

「今でこそ、エダマメはこの時期の主力品目となっていますが、私がエダマメに転換した当時は、まだエダマメ生産者も少なく、周囲の人もエダマメ転換には慎重な人が多かった」と当時を振り返る早川さん。勇気を持って飛び込んでみると価格は安定していて、「やりがいのある品目であることがわかった」そうです。転換当時、エダマメ栽培に不慣れな点が多く、出荷の方法を工夫する必要がありました。そこで、出荷先である上福岡市場(上福岡市)と相談して新たに出荷規格を作ったところ、この規格が好評で、今では市場の売れ筋規格の一つにまで成長しました。

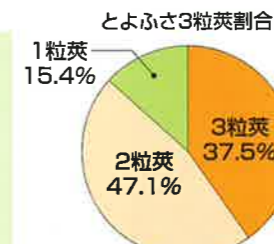
「とよふさ」との出会い

この規格では、葉付きでの出荷が求められますので、莢の色はもちろん、葉色にも鮮やかさが求められます。一般的に使われている品種では、高温条件下で葉色が淡くなるため見栄えが悪く、商品価値が下がる恐れがあります。早川さんは、懇意にしている種苗店様からの紹介を受けて、「とよふさ」を高温時期に使ってみることにしました。「『とよふさ』を使って、特に8月の高温条件下でも色落ちがせず、色鮮やかな葉付きエダマメを出荷できるのが嬉しい」と語る早川さん。莢のシミも少なく、高温期も安心して出荷ができます。

「とよふさ」を来年も使います!

早川さんが挙げる「とよふさ」の利点は……

- 一莢重が重い
- 三粒莢の割合が多い
- 葉、莢ともに高温期でも色が鮮やか。



弊社岩井研究農場調べ

「味という点で言うと今流行の茶豆などには及ばないが、それでもやはり色の鮮やかさは魅力だ」と早川さん。来年も継続してぜひ使っていきたいとのことをお言葉を頂戴しています。ともにエダマメ出荷に取り組むお仲間と共に品種に関する情報交換を重ねながら、2009年もエダマメ栽培に取り組めます。



早川 英希様

埼玉県ふじみ野市

エダマメ導入の経緯

もともとミズナ・コマツナ等の葉物の生産を手がけていた早川様ですが、6～8月にかけて価格の安定する品目を求めて経営方針を変更し、現在はエダマメを中心に作付しています。



莢付きもばらけない。



収穫期を迎えた「とよふさ」を手にする早川さん。



エダマメ生産者のお仲間と「とよふさ」。出荷先である上福岡市場の方も一緒です。